

# 野菜・花きの営農情報

《9月中旬～10月中旬の技術対策》

令和4年9月15日発行

第5号

空知農業改良普及センター本所



Tel: 0126-23-2900

Fax: 0126-22-2838

## 【全作物共通】

- ① 台風や大雨に備えて排水対策やハウスバンドの締め直しなど、風雨に対する備えに努めて下さい。
- ② ハウスの換気をこまめに行い、適温を確保するとともに、過湿状態が継続しないよう注意して下さい。
- ③ 今後、最低気温が10℃を下回る日が多くなるので、施設栽培では夜間の保温に留意して下さい。
- ④ 農薬の使用に当たっては、使用基準を守りましょう。
- ⑤ 適期収穫と選別の徹底に努め、出荷物の品質を維持しましょう。
- ⑥ 収穫後は有機物の施用など土づくり、排水対策などほ場環境の整備に努めましょう。

## 【野菜（果菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
ミニトマト	<ul style="list-style-type: none"><li>・5月上旬定植「キャロル10」では、8月下旬に12～13段目で主枝摘心。9月15日現在、第10～11花房の収穫が進んでおり、サイズはS規格中心となっています。</li></ul> <b>【管理のポイント】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・気温の低下とともに、着色の遅れや裂果が増えてきます。夕方は早めにハウスを閉め、夜間の保温に努めましょう。</li><li>・気温の低下とともに、灰色かび病の発生が多くなります。収穫終了花房付近や過繁茂となっている茎葉は晴天日に除去するとともに、発病葉や発病果を取り除き、ハウス外に搬出しましょう。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・灰色かび病、斑点病などの発生が見られます。</li><li>・換気による除湿、定期的な防除に努めましょう。</li></ul>  <p>写真 灰色かび病</p>
きゅうり	<ul style="list-style-type: none"><li>・夜温の低下とともに、つるの伸長や果実肥大が緩慢となっています。早めにハウスを閉め保温に努めましょう。</li><li>・適宜かん水や追肥を行い、果実肥大を促進させましょう。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・べと病の発生が見られます。病害虫の発生状況に留意し適期に防除しましょう。</li></ul>
かぼちゃ	<ul style="list-style-type: none"><li>・収穫の目安は果梗部にひびが入り、果皮の表面が堅くなってからです。</li><li>・キュアリングは風通しの良い、直射日光の当たらない場所で行いましょう。直射日光に当たると短時間でも日焼け果が発生しやすくなります。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・キュアリング中に腐敗した場合はつる枯病に罹病していた疑いがあります。次年度に向けほ場の排水対策等に努めましょう。</li></ul>  <p>写真 つる枯病罹病果実</p>

夏秋いちご	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 気温低下により種浮き果や果皮割れ果などが発生しやすくなります。高設栽培の場合は培地が乾燥・過湿にならないよう、排液のEC値を参考に、天候に合わせて給液回数をコントロールしましょう。</li> <li>• 葉かきは、古葉や重なった葉、ハダニ類等の被害葉を中心に行い、群落内の通気性を良好に保ちましょう。</li> <li>• 培地の温度は15～20℃を確保し、適切な追肥や葉面散布を行い、草勢を維持しましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ハダニ類、アザミウマ類の発生が見られます。防除により葉、果実を健全に保ちましょう。</li> <li>• うどんこ病や灰色かび病が発生しやすい時期です。葉かきや循環扇の活用、脱落した花卉や枯葉の除去、薬剤による予防防除を実施しましょう。</li> </ul>
-------	--	--

### 【野菜（葉茎菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 収穫が終了しました。本年は、昨年より収量が多い年でした。</li> </ul> <p><b>【管理のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 来春の収穫量を確保するためにも、ハウス被覆、かん水等の管理は出来るだけ長く行いましょう。</li> </ul> <p><b>【温度管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ハウス立茎栽培では、温度の確保に努めましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 茎葉の養分を効率よく根に転流させ、来春の収量を確保するため、斑点病、茎枯病の防除を実施しましょう。</li> </ul> <div data-bbox="820 801 1423 1167" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="820 1167 1423 1227">写真 斑点病</p>

### 【花き】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
花き類	<p><b>【温度管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 9月中旬を過ぎると、日によっては生育適温を下回ります。品目により、ハウスをこまめに開閉し温度管理を徹底しましょう。</li> <li>• 適夜温例： SPカーネーション 10～12℃、 スターチスシヌアータ 8～10℃、 オリエンタルユリ 15～18℃。</li> </ul> <p><b>【その他管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 他の農作業と重なる時期ですが、適期収穫を目指し収穫遅れや切り残しのないようにしましょう。</li> <li>• 加温作型では、加温機等の点検整備を早めに行いましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ほ場観察を行い、アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類、オオタバコガの発生が見られる場合は、防除を実施しましょう。</li> <li>• 気温の低下にともない、施設内を保温するため多湿となります。灰色かび病等の病害が発生しやすくなるので、除湿管理を心がけるとともに、殺菌剤でのローテーション防除を行いましょう。</li> </ul> <div data-bbox="1066 1630 1461 1921" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="895 1921 1461 1982">写真 カーネーションへのハダニ寄生</p>

★農薬を使用する場合は、必ず使用基準を守りましょう★